

電卓マスター講義

1. 電卓の選び方

(1) 一般的なサイズ

縦 17cm 横 11cm 程度

(2) 製造会社

S 社（シャープ）タイプ、C 社（カシオ）タイプ

※ キヤノンやシチズンなど、他のメーカーの電卓は基本的に S 社タイプと同じです。

(3) 最低限、備えていただきたい要件

① 12 桁表示

② メモリー機能（GT メモリー(*1)、独立メモリー(*2)）がついていること

③ 早打ちに対応していること（キーロールオーバー機能）

④ キーがついていること

*1 GT キーが付いていれば、GT メモリー機能は備わっています。

*2 、、（もしくは ）、（もしくは ）などのキーが付いていれば、独立メモリー機能は備わっています。

(4) 各種試験ごとの使用制限(※)

① 日商簿記検定

印刷（出力）機能、メロディー（音の出る）機能、プログラム機能（例：関数電卓等の多機能な電卓など）、辞書機能（文字入力を含む）の付いたものは使用が認められておりません。

② 税理士試験

・ 26cm×18cm 以内

・ 演算機能のみを有するもの（紙に記録する機能、計算過程をさかのぼって確認できる機能、プログラムの入力機能等を有するものは使用できません。ただし、消費税の税込み・税抜き計算機能のみを有しているものは使用できます。）

⇒ ・・キーのあるものは使用できません。

③ 公認会計士試験

・ 外形寸法がおおむね 20cm×20cm×5cm 以内

・ 計算機能以外の機能を有しないこと

・ プログラム入力・記憶機能、関数電卓機能、紙に記録する機能、漢字・カナ・英字入力機能を有しないこと

※ 実際に試験を受けるにあたっては、その試験の案内等を必ずチェックしてください！

2. 計算する前の設定

(1) C社タイプ

- ① ラウンドセレクターを、Fに合わせる。

F CUT 5/4

- ② 小数点セレクター（ラウンドセレクターがF以外のときに使う）

5 4 3 2 1 0 ADD

(2) S社タイプ

- ① 小数点桁数指定スイッチを、Fに合わせる。

F 5 4 3 2 1 0 A

- ② ラウンドスイッチ（小数点桁数指定スイッチを5～0にしたときに使う）

5/4 ↓

- ③ グランドトータルスイッチが付いている場合は、GTに合わせる。

GT ·

3. 打ち方等

- (1) 利き腕で打つ場合、親指と人差し指の間にペンを挟み軽く親指で持つ
- (2) ブラインドタッチのときは、5のキーについている突起が手がかり
- (3) ミスなく打てることが第一！

4. クリア・訂正

(1) 全くのゼロから計算をスタートしたいとき (ゴハサンクリア)

① C社タイプ

- ・ **リセット** キー
- ・ **リセット** キーが無い場合は、**AC** と **MC** の2つを押す。

② S社タイプ

- ・ **CA** キー (クリアオールキー)

(2) 独立メモリーを残してクリア

① C社タイプ

- ・ **AC** キー (オールクリアキー)

② S社タイプ (独立メモリーだけでなく、GT も残ります。)

- ・ **C** キー (クリアキー)

(3) 独立メモリーのみクリア

① C社タイプ

- ・ **MC** キー (メモリークリアキー)

② S社タイプ

- ・ **CM** キー (クリアメモリーキー)

(4) 直前に入力した数字のみクリア

① C社タイプ

- ・ **C** キー (クリアキー)

② S社タイプ

- ・ **CE** キー (クリアエントリーキー)

例) $1 + 2 + \cancel{3} 4 = 7$

⇒ 1 **+** 2 **+** 3 **C** 4 **=**

(5) 入力した数値の一部訂正 (1文字戻る)

▶ (桁下げキー) or **⇨** (右シフトキー)

例) $1,233 \rightarrow 1,234$

⇒ 1 2 3 3 **▶** 4

5. 四則計算

(1) サインチェンジキー ($\boxed{+/-}$) を用いる計算

例) $1,234 - 56 \times 789 = -42,950$

$\Rightarrow \cdot 56 \boxed{\times} 789 \boxed{+/-} \boxed{+} 1,234 \boxed{=}$

・なお、この計算は独立メモリー機能を使っても行うことができます。

$1,234 \boxed{M+} 56 \boxed{\times} 789 \boxed{M-} \boxed{MR}$

↓

S社タイプの場合は \boxed{RM}

(2) 累乗計算

例) $2^5 = 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 32$

① C社タイプ

$2 \boxed{\times} \boxed{\times} \boxed{=} \boxed{=} \boxed{=} \boxed{=}$

② S社タイプ

$2 \boxed{\times} \boxed{=} \boxed{=} \boxed{=} \boxed{=}$

6. 定数計算

例) $10 + 5 = 15$

$10 + 6 = 16$

$10 + 7 = 17$

$10 + 8 = 18$

(1) C社タイプ

$10 \boxed{+} \boxed{+} 5 \boxed{=}$

$6 \boxed{=}$

$7 \boxed{=}$

$8 \boxed{=}$

(2) S社タイプ

$10 \boxed{+} \boxed{=} 5 \boxed{=}$

$6 \boxed{=}$

$7 \boxed{=}$

$8 \boxed{=}$

(S社タイプの別法)

$5 \boxed{+} 10 \boxed{=}$

$6 \boxed{=}$

$7 \boxed{=}$

$8 \boxed{=}$

7. GT (グランドトータル) メモリー → $\boxed{=}$ を押して算定した数値の合計

例) $10 \times 20 + 15 \times 5 + 3 \times 12 = 311$

$\Rightarrow 10 \boxed{\times} 20 \boxed{=}$
15 $\boxed{\times}$ 5 $\boxed{=}$
3 $\boxed{\times}$ 12 $\boxed{=}$
 \boxed{GT}

8. 独立メモリー

(1) 上記7. の例を独立メモリー機能で計算した場合

10 $\boxed{\times}$ 20 $\boxed{M+}$
15 $\boxed{\times}$ 5 $\boxed{M+}$
3 $\boxed{\times}$ 12 $\boxed{M+}$
 \boxed{MR} (S社タイプの場合は \boxed{RM})

(2) 独立メモリーで算出する数値が、計算過程の1つでしか無い場合

例) $15 \times \frac{2,335 + 7,169}{33 \times 24} = 180$

$\Rightarrow 33 \boxed{\times} 24 \boxed{M+}$
2,335 $\boxed{+}$ 7,169 $\boxed{\div}$ \boxed{MR} $\boxed{\times}$ 15 $\boxed{=}$

↓

S社タイプの場合は \boxed{RM}

9. 具体例

(1) 個別原価計算における指図書別原価計算表 →定数計算と GT メモリーの併用例)

- ・材料単価は@1,000 円/kg である。
#101 に 5 kg、#102 に 20kg、#103 に 7 kg 使用した。
- ・直接労務費は@2,500 円/時間である。
当月の直接作業時間は、#101 が 4 時間、#102 が 12 時間、#103 が 2 時間であった。
- ・製造間接費の予定配賦率は@2,000/時間であり、直接作業時間を基準に各製品に配賦している。

指 図 書 別 原 価 計 算 表

摘 要	# 101	# 102	# 103	合 計
直 接 材 料 費	5,000	20,000	7,000	32,000
直 接 労 務 費	10,000	30,000	5,000	45,000
製 造 間 接 費	8,000	24,000	4,000	36,000
製 造 原 価	23,000	74,000	16,000	113,000

(C社タイプ)

直接材料費：1,000 5 20 7 GT
 直接労務費：2,500 4 12 2 GT
 製造間接費：2,000 4 12 2 GT

(S社タイプ)

直接材料費：1,000 5 20 7 GT
 直接労務費：2,500 4 12 2 GT
 製造間接費：2,000 4 12 2 GT

(2) 商品在高帳における平均単価の算定 →独立メモリーの活用

商 品 有 高 帳

(単位：個、円)

日付	摘 要	受 入 高			払 出 高			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
3	1 前月繰越	40	1,500	各自推定				40	1,500	各自推定
	8 広島商店	100	1,570	各自推定				140	1,550	各自推定
	11 岡山商店				60	1,550	各自推定	80	1,550	各自推定
	:									

$$3/8 \text{ 残高の平均単価} = \frac{(40 \times 1,500) + (100 \times 1,570)}{40+100} = 1,550$$

$$40 \boxed{+} 100 \boxed{M+}$$

$$40 \boxed{\times} 1,500 \boxed{=} 100 \boxed{\times} 1,570 \boxed{=}$$

$$\boxed{GT} \boxed{\div} \boxed{MR} \boxed{=}$$

↓

S社タイプの場合は \boxed{RM}

例) 当期より営業を開始。

当期の仕訳は次の2つのみ。

① 現金 100 / 資本金 100

② 仕入 230 / 買掛金 230

残高試算表

平成×年 12月 31日

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
100	現金	
	買掛金	230
	資本金	100
230	仕入	
330		330